

斬新な舗装技術で、自然環境にやさしい空間を創出します。

毎年、夏になると問題となるヒートアイランド現象の抑制や、森林保護を推進する間伐材の有効活用など…。大成ロテックは、常にユニークな舗装技術を提案し、人と自然環境にやさしい空間の創出に貢献しています。

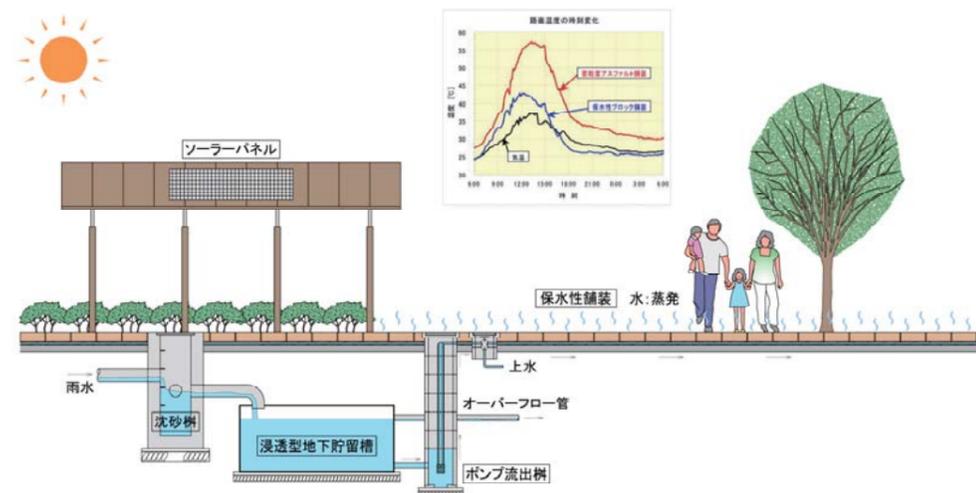
路面温度上昇を抑制するヒートアイランド対策

セラクールシステム舗装

保水性セラミックブロックの下に灌水チューブを配管し、タイマーコントロールにより毎日所定の時間に水を保水性セラミックブロックに自動供給するシステムです。保水性セラミックブロック中の水は、路面が熱せられると蒸発し、そのとき周囲から気化熱を奪う“打ち水効果”により路面の温度上昇を抑制します。

現在、JR三鷹駅南口広場に採用され、その調査結果

では、一般的なアスファルト舗装に比較して最大19℃程度の路面温度の低減効果があり、都市部のヒートアイランド対策としても有効であることが実証されています。また、路面から反射される熱量についても約13%低減が確認されていることから、特に、路面からの反射熱を受けやすい子供や高齢者の方々の熱中症対策としての効果も期待されています。

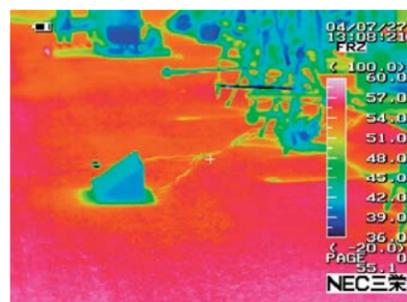


緑の小ひろばの保水性舗装システム

路面に降った雨水を地下に貯め、保水性舗装に有効利用します。また、下水処理の負担軽減の役割もあります。

ソーラーパネルによる太陽光発電でポンプを動作し地下貯留槽から舗装下部へ水を供給します。

保水性舗装は、地下から供給された水を吸い上げ、太陽に照れられて熱くなると、水を蒸発させながらその気化熱で路面の温度上昇を抑制します。



一般的な舗装の路面温度



セラクールシステム舗装の路面温度

間伐材を有効利用し、限りなく自然道に近い舗装を実現

ウッドファイバー舗装

針葉樹、広葉樹の間伐材や剪定枝のチップを専用破砕機でファイバー状にした「ウッドファイバー」と、軟質なウレタン樹脂の混合物を碎石路面上に敷きならした透水性の木質系舗装技術で、森林資源の有効利用の推進にも有効です。

天然木材と軟質な樹脂を使用しているため、適度なクッション性と歩行感に優れ、年数の経過とともに舗装表面の風合いは周囲の景観にマッチした親しみと潤いのある舗装を提供します。

ウッドファイバー	3cm
路盤 粒状材料	10cm



針葉樹チップ



ウッドファイバー



北海道／八雲町茂漁川遊歩道



徳島県／吉野川護岸遊歩道



宮城県／松島町福浦島公園自然歩道

『人に優しい道路空間の活用社会実験』に参画

東京都中央区の日本橋みゆき通り道路実験協議会は、『木材を用いた歩道舗装等による人に優しい道路空間の活用社会実験』を推進しています。これは、木を舗装材や道路空間整備用部材などに活用することで、都心の歩行空間に安らぎを与え、環境面での効果を目的としています。木材は、西多摩郡檜原村数馬(ひのはらむらかずま)地区の森林(約33.5ha)から発生する間伐材を利用しています。

大成ロテックは、この社会実験において木質系の歩道舗装(ウッドファイバー舗装、木ブロック舗装)の施工を手掛け、地元住民などから好評を得ています。私たちは、今後もこのような環境に配慮した社会実験にも積極的に参画していく予定です。



ウッドファイバー舗装



木ブロック舗装

Column